



楽しみ方を見つけていくこと

先週のコスモスハーモニーでお家の方から紹介してもらった「子どもの文化人類学」、早速読みました。

とても面白くて、一気に読み切ってしまいました。

読後感としては、「子育てに対する心持ちがフッと軽くなった」というのが率直な感想です。

あまりに素敵な一冊だったので、読み終えた後に妻にも紹介すると、これまた「面白い！」と好評でした。

前半に乗っていたカナダの先住民族の子育てについて、いくつか、心に残った部分を引用します。

- 十歳ぐらいの子どもは、ちょっとした傷の応急処置ができます。鋭い刃物で切った傷は治りが早いけれど、鈍い刃物やさびのついたもので切った傷はおそろしいということも知っています。しかも、自分を傷から守るのは、親や年上のだれでもなく、自分しかないのだということを肝に銘じて知っているのです。
- 親や先生の側から「しなさい」といわれることを、仲間の同級生よりもよくできれば、褒められる。こういった体験が、子どもの生活の全部ではないにしても、大きな部分を占めてしまうと、自力で人生を探索するという能力がおとろえてしまうのでしょうか。それとも、親や兄弟や祖父母など、身近に生活をともしにする年長者が、何かに打ち込んでいる姿を見る機会が、サラリーマンの家庭では少なくなっているといったことが、自分の打ち込めるものを見出せない若者を生み出しているのでしょうか。

- ここまで職業や多様化し、人生に関するさまざまな価値観が共存している私たちの社会を、ヘヤー社会のように単一の生業で生活する社会に変えることはできません。ただ、おとなが何かに打ち込む姿を、子どもに見てもらうということ自体に、大きな教育的効果があるのならば、私たちはヘヤー社会から大いに学び取るべきかもしれません。サラリーマン家庭で、職業生活を子どもに見せることが困難であっても、趣味なり、副業なりに打ち込む親の姿を子どもに見てもらい、そして、何かをするための準備の段階から完成の段階までを、順次見てもらうというのは、まったくできないことではありません。
- 「育児」という活動を、ヘヤーの人々は「はたらく」「あそぶ」「やすむ」の、どのカテゴリーに入れていると思われるでしょうか。なんと「あそぶ」ことの中に入っているのです。彼らは、「はたらく」ことと「あそぶ」ことの中に入っているのです。彼らは、「はたらく」ことと「あそぶ」ことを、生きていく上で同等に重要不可欠な活動であると考えていますから、ヘヤー語には、「あそび半分で何かをする」といったことは成り立ちません。ともあれ、ヘヤーにとっても、「あそぶ」方が「はたらく」よりも楽しいことなのです。
- 日本人は「子どもを育てるのは苦勞だけれど楽しさもある」といつてみたり、「あんなに苦勞して育てたわが子なのに私から離れていって情けない」といつてみたりします。そして「育児は大切な仕事だ」と考えているようです。近年では「育児は大変な負担だ」と感じている日本人も増えてきているとさえいわれています。日本人の中には、育児を「あそび」と考えるヘヤーのこことを「ひとでなし」と考える人があるかもしれません。しかし、ヘヤーは、老若男女をとわず、ほんとうに楽しんで子どもを育てています。

この本を読んで、確かに子育てとは楽しいものだったなということに改めて気づかされた思いがしました。

そして、なぜ本当は楽しいものが楽しめなくなったり、苦しさや辛さを覚えたりするようになるのか、考えさせられました。

先日のブータンの例よろしく、何かと比べ、誰かと比べ、それを過度にし過ぎるようになるところから幸福感や楽しむ気持ちが失われていくことが、この本の中でも同様に示唆されていました。

子育ての中にある本来の楽しさを見つけていくこと、またその楽しみ方を見つけていくことが大切だということを感じて一冊でした。

本来の楽しさを見つけることも、楽しみ方を見つけていくことも、これは仕事でも勉強でも同じかもしれませんね。

そういえば、今から数年前。

我が家の長男が幼稚園に通い始めた日に、こんなことがありました。

初めての送迎バスに心躍らせ、バス停で見送る妻に手を振りながら笑顔で登園していった長男。

特にトラブルもなく無事に登園できたことにホッと一安心の瞬間です。

その日の夕方。

同じバス停に妻が迎えに行くと、長男が驚きの表情でバスから降りてきたそうです。

そして一言、

「お母さん、ずっとここにいたの？」

と聞いてきたとのこと。

朝バス停で見送ってくれたお母さんが、夕方まで全く動かないでそこにいたと思ったようです。

これを聞いた妻はしばらく大笑いしたとその日の晩に聞きました。

子どもたちの感覚や完成って、本当に大人では想像もつかない域で発露することがありますよね。

これも、子育てのだいご味であり、そんなささやかな場面をともに語ったりすることも楽しみ方の一つなのかなとも感じました。

子育ての中でのフフッと笑えるエピソードや、エッと仰天したエピソードなど、気軽に聞かせてもらえたら嬉しいです。おすすめの本の紹介もお待ちしております。（渡辺道治）

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ペ](#)

[ージ \(google.com\)](https://www.google.com)

